

0. タイトル『汗』

1. 北山平佐工門の屋敷

・ベッドに寝ている男、青年富豪、北山平佐工門が起き上がる。使用人は検温をして、ガウンをはおらせる。平佐工門は、使用人に囲まれて、風呂、散髪、着替えを終え、食事をとる。寄付金の申し込みや、記念館建設のための建築会社との打ち合わせなどについては、使用人にその処理を任せる。

2. 平佐工門は、屋敷を後にして、運転手の運転する車に乗り、山の別荘に向かう。使用人達はその後を車で追いかける。(ディゾルヴ)

3. 別荘

・平佐工門はバルコニーの椅子に腰かけている。そばには使用人が控えており、あれこれと身の回りの世話をすする。平佐工門は使用人に腹を立て、バルコニーを離れ部屋に入る。

・部屋の中で酒を飲む平佐工門。飲酒を使用人に制限されるが、耳を貸さない。

・泥酔した主人公の前で、宴が催される。数々の出し物が披露されるが、平佐工門は退屈そうにしている。ついに怒りだした平佐工門は別荘を飛び出す。

4. 山道→岩陰

・山道を下っていく平佐工門、彼を追いかける使用人たち。

・平佐工門は泥酔して岩陰に座り込み、そのまま寝込む。その間に、通りかかった労働者風の男に服を取りかえられる。しばらくして目を覚ました平佐工門は、混乱しており、通りがかりの百姓に自分はだれか、どうすればよいのか尋ねるが、気がふれた人と間違われ、追われる。

5. 広い道路

・百姓から逃れ、通りがかりのタクシーに乗るが、平佐工門がお金を持っていないことを知ると、運転手は車から彼を追出す。(ディゾルヴ)

6. 田舎道

・畑の傍の田舎道を移動する平佐工門。道端に座り込むが、小屋から出てくる男女を見て、彼らについていく。女性(お静)からご飯を手渡される。

7. 工事現場

・お静は、平佐工門に職を与えようと、工事現場の親方にその旨を伝え、了承を得る。

8. 畑

・座り込んでご飯を食べている平佐工門のもとに、女性がやって来る。平佐工門に仕事を手配した旨を伝え、嫌がる彼を引っ張って現場に向かう(ディゾルヴ)

9. 工事現場

・平佐工門は親方にせきたてられ、嫌がりながらも働く。仕事が終わりと、日当を渡される。侮辱されたと、お静に怒りをぶつけた平佐工門は、そのままその場を去る。(ディゾルヴ)

10. 駅

・平佐工門は帰宅するために切符を買おうとするが、お金が足りない。そこに通りかかった労働者たちが、平佐工門を食事に誘う。

11. 飲食店

・平佐工門、労働者とともに食事をする。酔いつぶれた平佐工門を残して、他の人々は席を去る。眠り込む平佐工門ともう一人の男を店主がゆり起す。

12. 親方の事務所

・飲食代を払えなかった平佐工門達を連れて、店主が親方に飲食代の建て替えを要求する。親方は金を払う。

13. 食堂

・部屋の隅にうずくまる平佐工門に、お静が話しかける。親方はその様子を見ている。親方が食事を切り上げるようにと命令を出したため、平佐工門はご飯を食べ損なう。お静は同情するが、親方は認めず、そのまま工事